

幼保小の連携・接続に関する調査 2025 概要版

令和4年度から始まった文部科学省「幼保小の架け橋プログラム」においては、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて連携・協働し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る重要性が指摘されています。

横浜市では、幼保小の交流や連携、接続期カリキュラム等の実施状況等を把握するため、市内の保育所、幼稚園、認定こども園と、小学校を対象とした実態調査を毎年実施しています。今後の皆様のお取組の参考にしていただけるよう、概要版を作成しましたので、ぜひご参照ください。

なお、分析も含めた詳細版は、ホームページに掲載しております。併せてご活用ください。

調査にご協力いただいた幼児教育施設及び学校数

	令和7年度		
	全体数	提出数	回収率
公立保育所	56	56	100%
私立保育所	815	231	28%
幼稚園	213	91	43%
認定こども園	77	34	44%
小学校・義務教育学校	337	337	100%
合 計	1,498	749	50%

調査担当

幼稚園・認定こども園・保育園 …… こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当

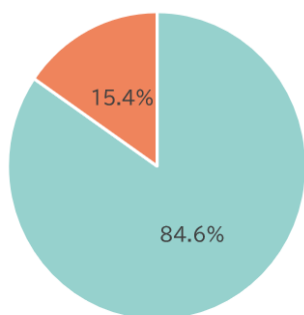
小学校・義務教育学校 …… 教育委員会事務局 学校経営支援課

報告書編集・発行

こども青少年局 保育・教育支援課 幼保小連携担当 671—3731

幼児教育施設

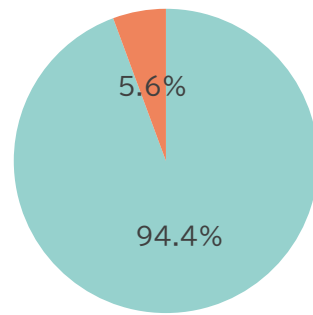
アプローチカリキュラムの実施状況
n=370



■実施している/実施予定である ■実施していない/実施する予定はない

小学校

スタートカリキュラム実施率
n=(337)



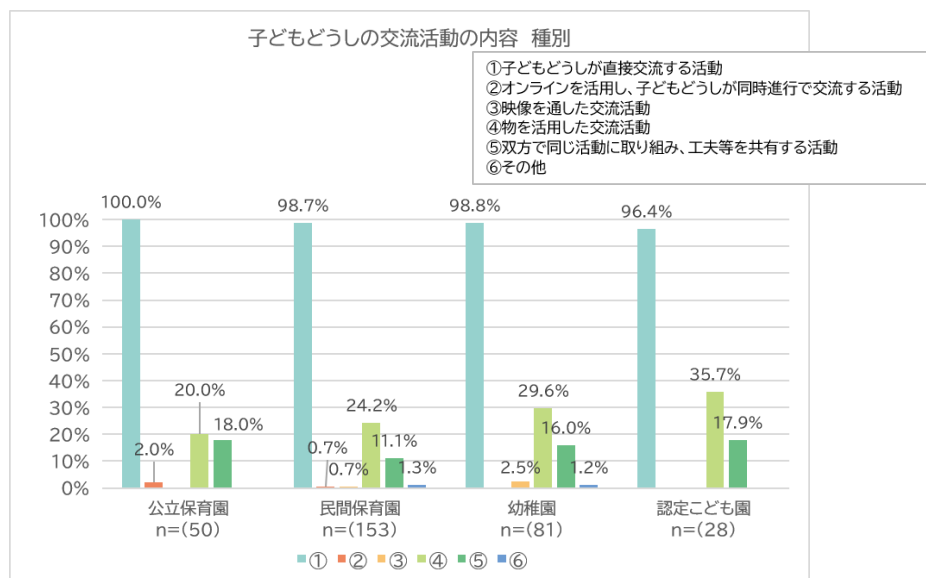
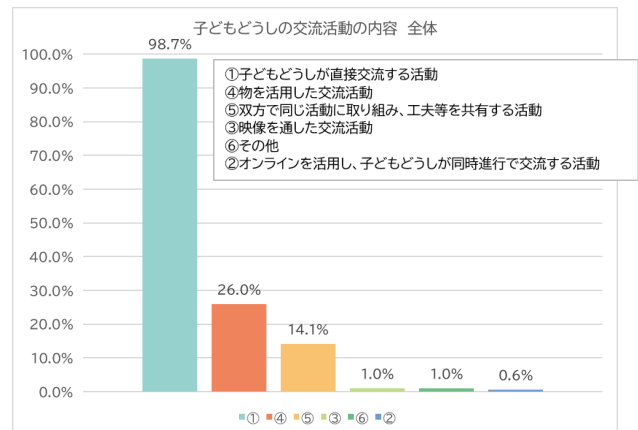
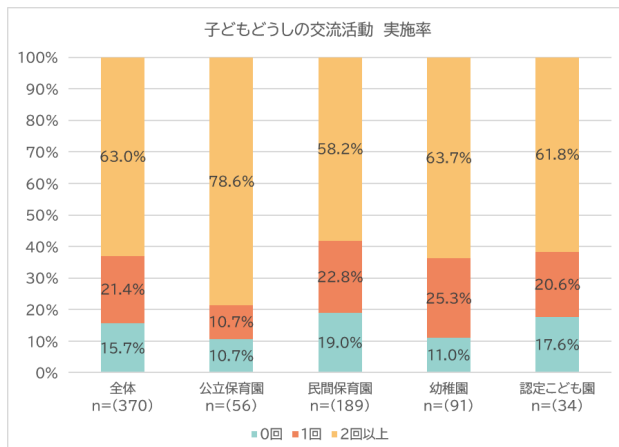
■実施した ■実施していない

幼児教育施設、小学校のカリキュラムの実施状況を確認すると、両者とも8割以上が実施しており、昨年度の実施状況(幼児教育施設:81.2%、小学校:94.1%)と比較しても、ともに増加していることが確認できます。

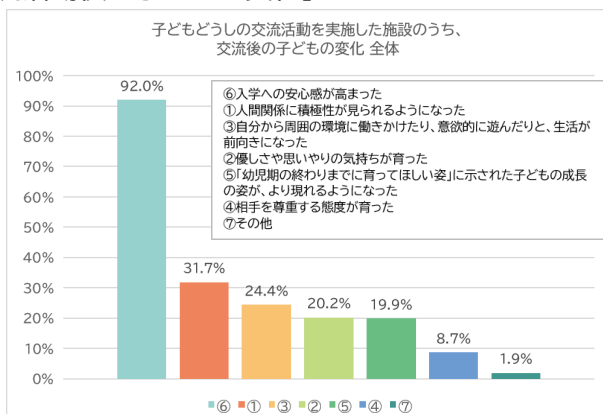
幼児教育施設【子どもどうしの“交流活動”の実施について】

交流活動を実施した	312 園	交流活動を実施していない	58園
-----------	-------	--------------	-----

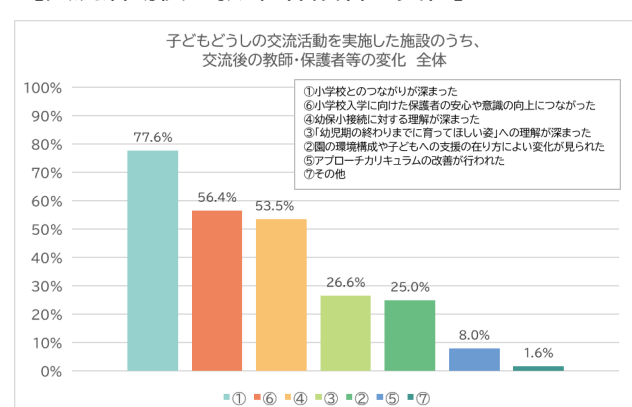
【子どもどうしの交流活動について】実施率および実施内容(全体・種別)



【交流活動後の子どもの変化】



【交流活動後の教師・保護者の変化】

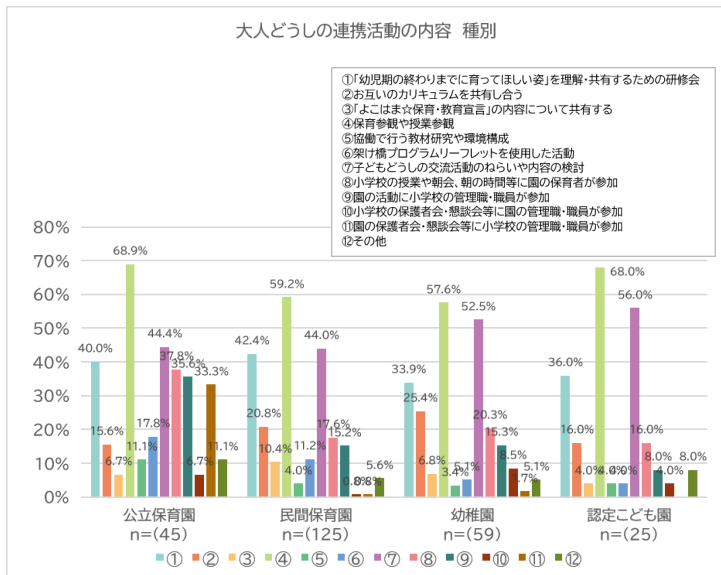
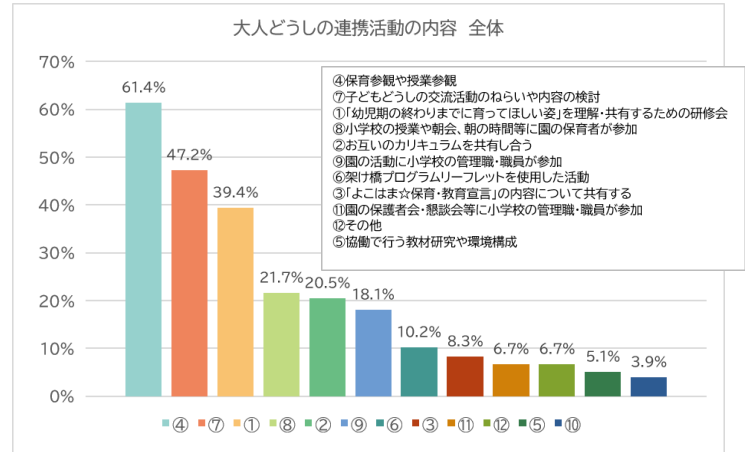
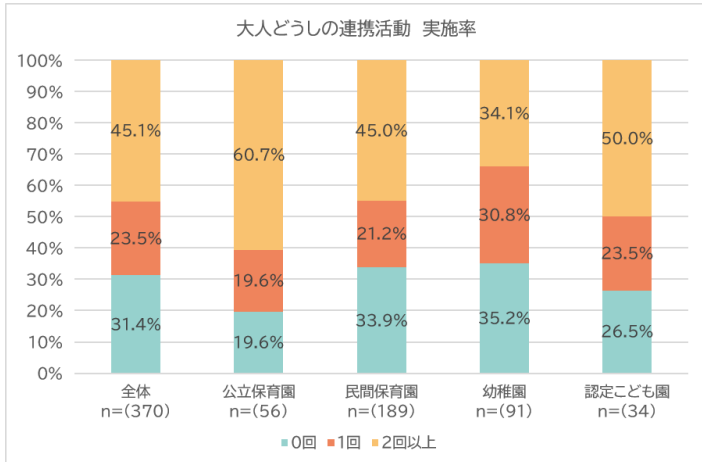


令和7年度の子どもどうしの交流活動実施率は、昨年(93.4%)に比し、9.0ポイント減少しました。交流の実施内容は、「子どもどうしが直接交流する活動」と回答した園が98.7%と非常に高い一方、令和3年度や令和4年度には回答比率の高かったオンラインを活用した活動がほとんど見られなくなりました。交流活動を行った園では、92.0%の園が子どもの入学への安心感が高まったと感じており、また、8割近くの教師・保護者が、小学校とのつながりが深まったと回答しています。

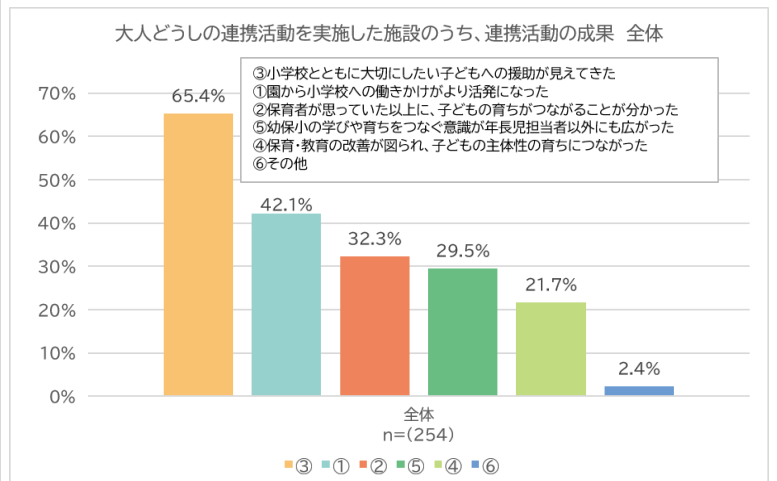
幼児教育施設【大人どうしの“連携活動”の実施について】

連携活動を実施した	254園	連携活動を実施していない	116園
-----------	------	--------------	------

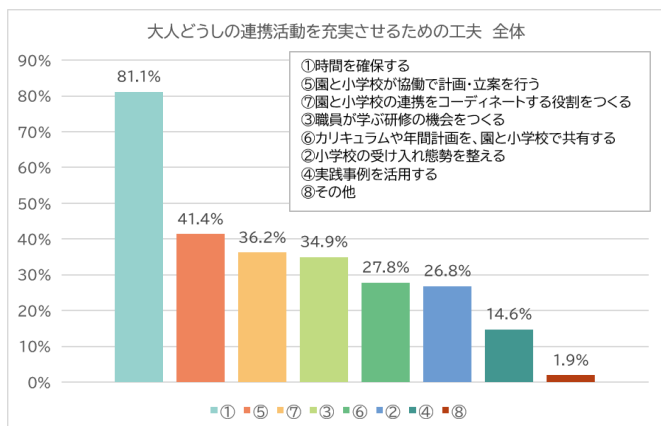
【大人どうしの連携活動について】実施率および実施内容(全体・種別)



【大人どうしの連携活動の成果】



【大人どうしの連携活動を充実させるための工夫】



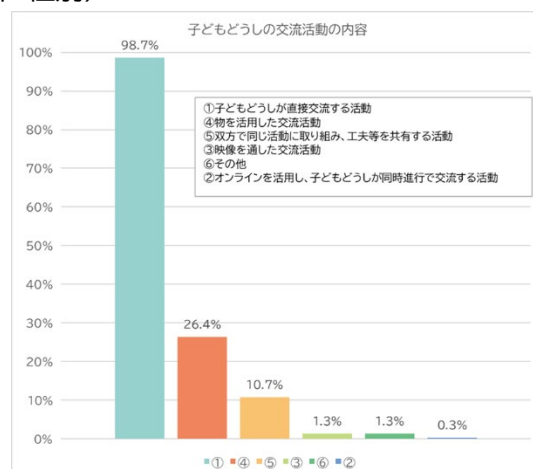
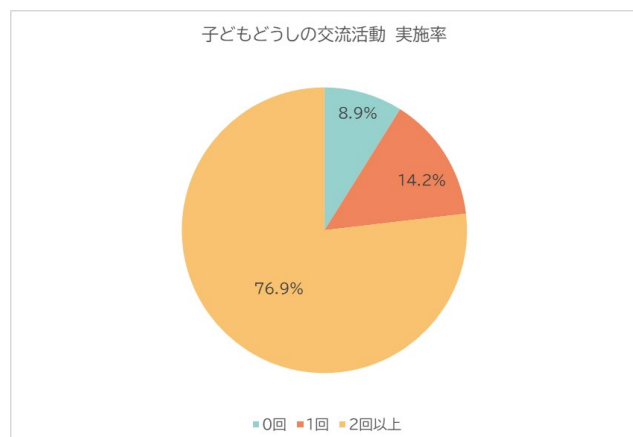
大人どうしの連携活動の実施率は、昨年度(74.5%)に比し、5.9ポイント減少しました。連携活動の内容は、令和5年、令和6年においては「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解・共有するための研修会」と回答した比率がいちばん高かったが、令和7年度では「保育参観・授業参観」と回答する比率が高まりました。

連携活動による成果としては、昨年に続き、「小学校とともに大切にしたい子どもへの援助が見えてきた」(65.4%)がいちばん多く、「園から小学校への働きかけがより活発になった」(42.1%)がこれに続いており、連携活動を行った成果を実感する声が報告されています。連携活動を充実させるための工夫としては、「時間を確保する」(81.1%)が他の回答を大きく引き離していました。

小学校【子どもどうしの“交流活動”の実施について】

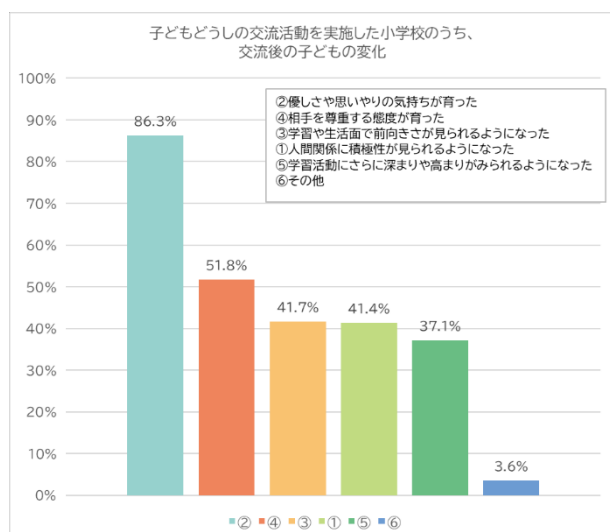
交流活動を実施した	307 校	交流活動を実施していない	30 校
-----------	-------	--------------	------

【子どもどうしの交流活動について】実施率および実施内容(全体・種別)

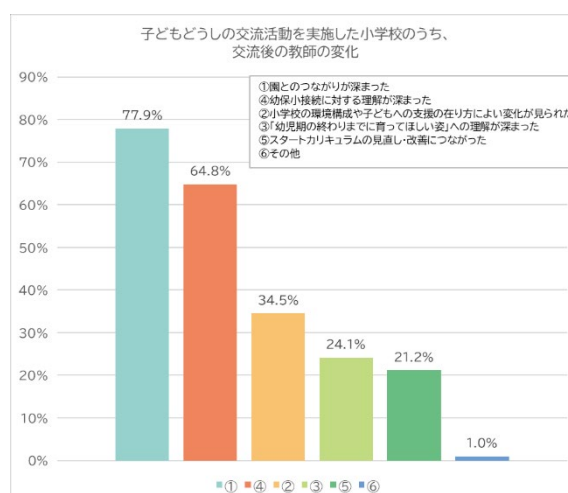


全施設種の子どもどうしの交流活動は、9割を超えており、交流活動の内容としては、「子どもどうしが直接交流する活動」の割合が98.7%と高くなっています。

【子どもどうしの交流活動による変化】



【子どもどうしの交流活動後の教師・保護者の変化】

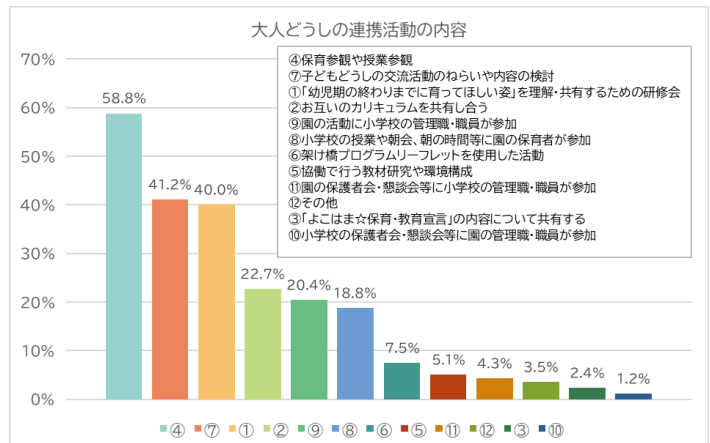
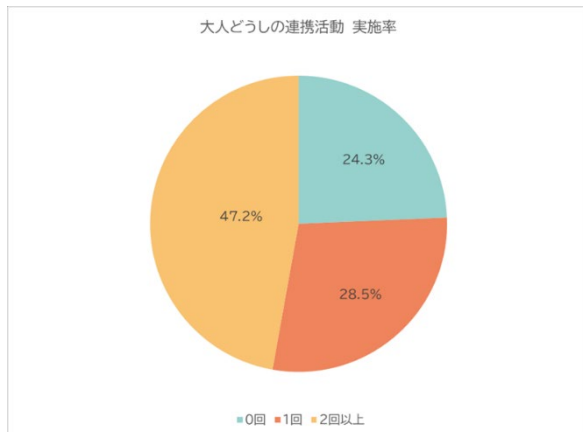


交流活動を行った小学校では、交流後の子どもの変化として、「優しさや思いやりの気持ちが育った」(86.3%)、「相手を尊重する態度が育った」(51.8%)が、昨年度よりポイントを高めており、交流活動による子どもの成長を実感している姿がうかがえます。子どもどうしの交流活動後の教師・保護者の変化としては、「園とのつながりが深まった」(77.9%)、「幼保小接続に対する理解が深まった」(64.8%)の回答が高く、交流活動後、教師・保護者ともに幼保小接続への理解が深まり、小学校への安心感や期待感が高まる姿が見られます。

小学校【大人どうしの“連携活動”の実施について】

連携活動を実施した	255 校	連携活動を実施していない	82 校
-----------	-------	--------------	------

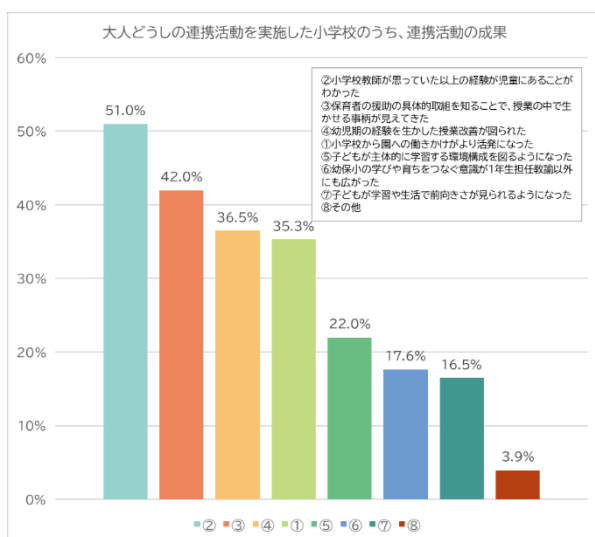
【大人どうしの連携活動について】実施率および実施内容(全体・種別)



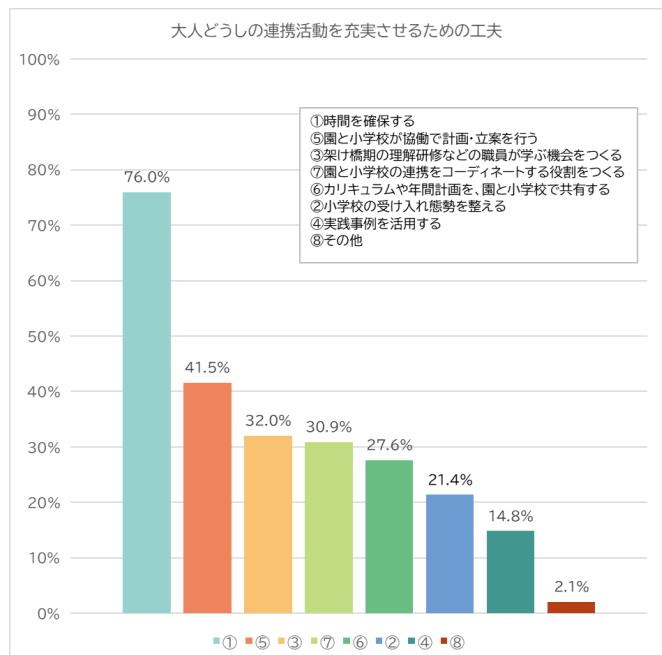
大人どうしの連携活動は、昨年(82.2%)に比し、

6.5 ポイント減少しましたが、4分の3の小学校が連携活動を実施しています。連携活動の内容としては、「保育参観や授業参観」(58.8%)、「子どもどうしの交流活動のねらいや内容の検討」(41.2%)がこれに続きます。

【大人どうしの連携活動の成果】



【大人どうしの連携活動を充実させるための工夫】



連携活動による成果としては、「小学校教師が思っていた以上の経験が児童にあることがわかった」(51.0%)、「保育者の援助の具体的取組を知ることで、授業の中で生かせる事柄が見えてきた」(42.0%)、「幼児期の経験を生かした授業改善が図られた」(36.5%)、「小学校から園への働きかけがより活発になった」(35.3%)の順であり、授業の中で改善が図られている様子がうかがえます。大人どうしの連携活動を充実させるための工夫としては、「時間を確保する」(76.0%)が他を大きく引き離している点は、子どもどうしの交流活動(77.2%)と同様の傾向が見られました。